

広がれ 未来の夢

～上勝の仕事を調べよう～

いろいろの仕事

上勝の有名な産業である「いろいろ」について調べたり体験したりしました。

葉っぱの収穫・選別



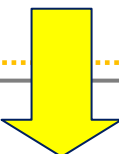
まず最初に、南天の葉っぱを収穫しに行きました。できるだけ緑の濃い葉っぱを収穫するようにします。いろいろ農家の方たちは、ハウスなどで葉っぱを大切に育てています。次に、出荷できる葉っぱを選別します。虫が食っていない、きれいな色や形のものを選びます。

パック詰め



選んだ葉っぱをトレーに詰めます。このとき大きさも揃えるようにします。このように作業をしていくと、たくさんの葉っぱを収穫しても、出荷できるものはほんのわずかです。でも、きちんと作業をすることは信用につながるので、真剣に選別やパック詰めを行わなければいけないことを学びました。

調べたことをまとめよう



彩について

彩をしながら...

季節を送る"彩"に早期栽培をしている。一枚一枚きれいかどうか見ている。針木さんは紅葉もよし、彩の葉が好きと語っていた。彩の仕事は料亭の方からの、信頼が必要という事が分かった。

葉っぱの詰め方

もみじは約50～60枚で、南天は小が20枚、中が10ずつ詰めていく。どちらも一本の枝の葉に詰めいく。彩は料理の飾りだから見た目をよくして、買ってもらえるようにする。

社説

私は意外と彩の値段が高いと思った。やはり産物を売るというのは、信頼や思いがあるという事が分かった。(P.2)

たご焼き体験 新聞

この日は、ゲストで登松さんをまねている人話を聞きました。登松さんが、たご焼きを始めて、お金よりも買ってくれた人と、話をする方が好きと言っていたのが、僕には、とてもすごいと思いました。

話を聞いた後、実際にたご焼きを作らせてもらいました。みんなで大盛りしました。ここでは、粗太君が、慣れた手つきでみんなにアドバイスしたり、そっせんと作っていました。そして完成したのは、下の写真のようなたご焼きです。

最後はみんなで、作った、たご焼きを食べました。他の学年にも、たご焼きを配りました。渡すと、「やめた」と喜んでくれたので、とても嬉しかったです。

社説 今回の焼きで登松さんが、たご焼き屋を続けている理由は、お金よりも買ってくれた人を大切に思っているからたご焼き屋を続けているのだと思います。

いろいろ新聞

なんてん切り

最初になんてんを取りに行ったら、なんてんは日光に当たらないハウスに育てていた。次になんてん切りをした。なんてんは三角形になるようにして、中小に分けて切る。載っている葉や穴が空いている葉は捨てないといけない。そういうことを見たりやったりしないといけないから大変だ。針木さんは早くなんてんを切っているのすごいと思った。

なんてんづめ

次になんてんづめをした。なんてんをつめるときは中小に分けて、一本に見えるようにしてつめる。指でまんまてんを一本に見えるようにしないといけないので難しい。そしてなんてんをパックにつめてラップをしてシールを貼って完成。きれいに詰めないと値段も下がるのでしっかりとつめないといけない。

かきの葉合わせ

それからかきの葉合わせをした。かきの葉合わせをするときは同じ大きさにそろえる。載っている葉や穴が空いている葉は捨てないといけない。なかなか同じ大きさの葉はないので見つけるのが難しい。

社説

僕はいろいろ体験をして葉をつめるときが楽しかった。きれいに詰めると信頼もなくなるのかもしれない。でも葉を切ったりつめたりするのは楽しかった。いろいろしている人は続けているのだと思った。



体験や聞き取りをさせていただいたことで、いろいろの仕事はとても繊細な仕事で苦勞がたくさんあることがわかりました。将来、いろいろの仕事をして、上勝の産業を守っていきたいという感想も聞かれました。